

“犬、猫用ペットフード” 年間輸出最高金額を超える

犬・猫ヒストリー

人と動物は、はるか昔から共に過ごし、当初は家畜化されていた動物たちも、今日では人の心を和ませたり楽しませたりしてくれるペットとして、人と共に暮らしています。その背景として、長い歴史を通じた人と動物たちとのエピソードも数多く紹介されています。

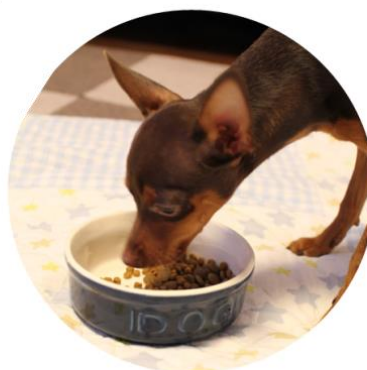
犬の祖先といわれるオオカミは、人が家畜化した最初の動物だといわれています。

オオカミ（犬）と人間との共生は、3万年～1万5千年前から始まり、当初は狩猟時の助けや住居の見張り役のような役割を果たしていたようです。

猫は古代エジプトにおいて神格化され、高貴な身分にふさわしい愛玩動物であったといわれています。

丁寧に埋葬された猫のミイラも発見されており、その時代における地位がいかに高かったかをうかがい知ることができます。

今回の特集として、彼らの食事「犬、猫用ペットフード」の輸出に注目してみました。



2016年(1月～9月)輸出金額が 「年間過去最高額」を超える

2016年(1月～9月)の名古屋税関管内における「犬、猫用ペットフード」^{※1}の輸出実績は、

- ・数量 399トン（前年同期比 172.0%）
- ・金額 6億 2,181万円（同 246.7%）

となり、輸出金額については2012年から4年連

続で増加しており、2016年(1月～9月)には1988年に記録した年間過去最高金額^{※2}であった4億 1,844万円を上回るまでに至っています。

^{※1} 「犬、猫用ペットフード」とは、輸出統計品目番号「2309.10-000(犬用又は猫用の飼料)」をまとめたものです。

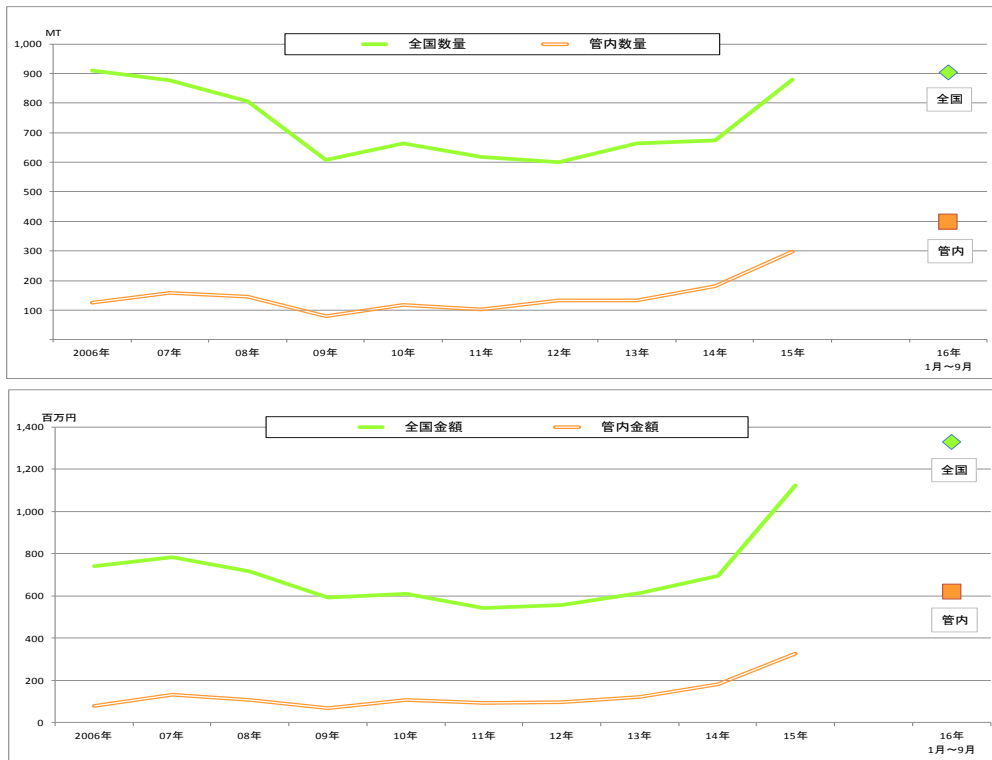
^{※2} 「年間過去最高」とは、データとして比較対照が可能な1988年以降の実績となります。

【図表1】「犬、猫用ペットフード」直近10年間の輸出推移表(全国・名古屋分)

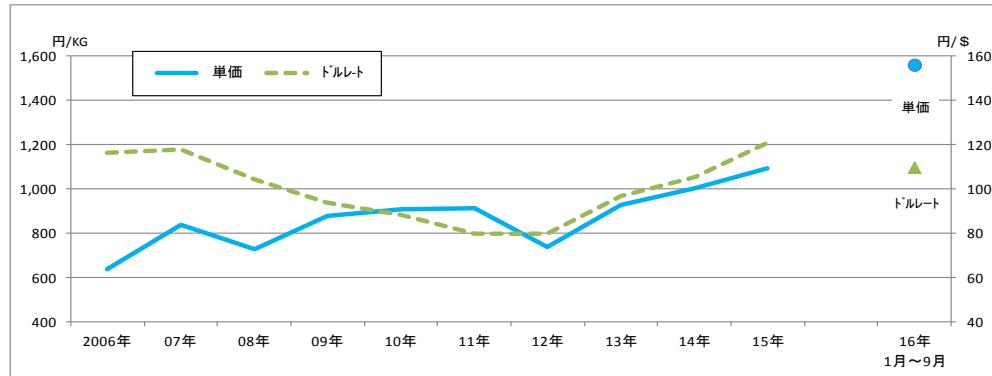
西暦	全 国					名古屋税関管内							参 考	
	数量(MT)	前年比	金額(万円)	前年比	単価(円/KG)	数量(MT)	前年比	全国比	金額(万円)	前年比	全国比	単価(円/KG)	単価(ドル/KG)	ドルレート
2006年	909	93.9%	74,055	95.6%	815	126	80.8%	13.9%	8,007	124.6%	10.8%	635	5.47	116.25
2007年	878	96.6%	78,285	105.7%	892	157	124.6%	17.9%	13,135	164.0%	16.8%	837	7.09	117.93
2008年	807	91.9%	71,557	91.4%	887	146	93.0%	18.1%	10,646	81.1%	14.9%	729	7.00	104.23
2009年	607	75.2%	59,074	82.6%	973	80	54.8%	13.2%	7,017	65.9%	11.9%	877	9.38	93.52
2010年	664	109.4%	60,940	103.2%	918	118	147.5%	17.8%	10,713	152.7%	17.6%	908	10.31	88.09
2011年	617	92.9%	54,345	89.2%	881	101	85.6%	16.4%	9,225	86.1%	17.0%	913	11.42	79.97
2012年	601	97.4%	55,765	102.6%	928	133	131.7%	22.1%	9,794	106.2%	17.6%	736	9.26	79.55
2013年	665	110.6%	61,456	110.2%	924	132	99.2%	19.8%	12,234	124.9%	19.9%	927	9.56	96.91
2014年	673	101.2%	69,448	113.0%	1,032	182	137.9%	27.0%	18,292	149.5%	26.3%	1,005	9.54	105.30
2015年	879	130.6%	112,104	161.4%	1,275	299	164.3%	34.0%	32,639	178.4%	29.1%	1,092	9.02	121.00
16年1月～9月	904	145.8%	132,874	167.3%	1,470	399	172.0%	44.1%	62,181	246.7%	46.8%	1,558	14.21	109.64

※「朱書き(下線表記)」の数値は、比較対照が可能な1988年以降の過去最高値を表します。

【図表2】数量・金額の輸出推移グラフ(全国・名古屋分)



【図表3】管内における通関単価及びドルレートの推移

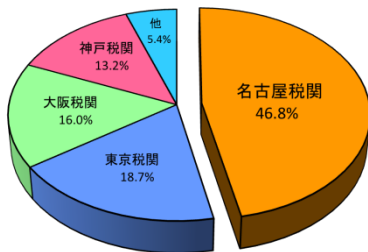


※「ドルレート」とは、為替レート(税関長公示レートの加重平均値)を表します。

2016年(1月～9月) 管内の全国税関別シェア 数量、金額ともに第1位

管内の全国税関別シェアをみると、直近10年間(2006年～15年)〔【図表1】参照〕では、10%台から30%前後で推移してきましたが、2016年(1月～9月)には数量シェア44.1%、金額シェア46.8%と大幅に増加し、ともに全国第1位となっています。

【図表4】税関別金額構成比 (2016年1月～9月)

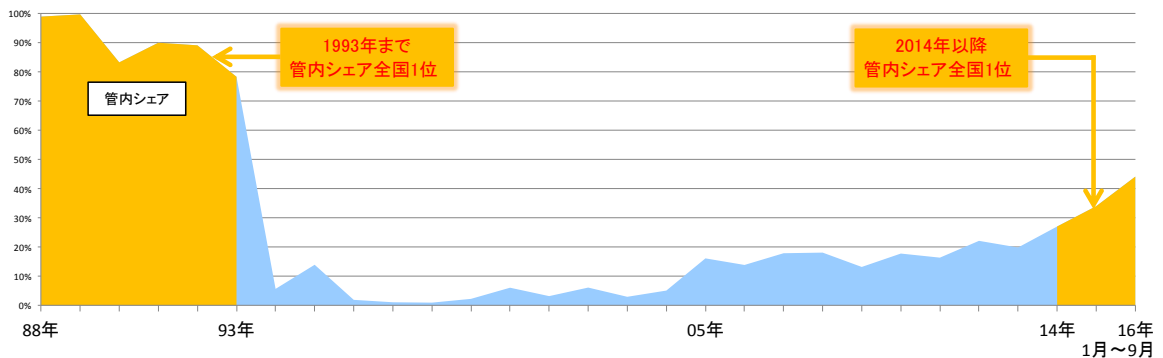


更に全国港別実績(金額ベース)〔【図表5】参照〕では、第1位に清水港(シェア29.4%)、そして第2位に名古屋港(同16.8%)と管内の2港が占める状況となっています。

【図表5】港別金額上位港 (2016年1月～9月)

順位	港名	数量 (MT)		金額 (千円)	
		数量	構成比	金額	構成比
1	清水	264	29.2%	390,229	29.4%
2	名古屋	120	13.3%	223,293	16.8%
3	神戸	232	25.7%	174,706	13.1%
4	大阪	139	15.4%	174,457	13.1%
5	成田空港	11	1.2%	139,494	10.5%

【図表6】管内 輸出数量とシェアの推移



	1988年	89年	90年	91年	92年	93年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年 1月～9月
管内数量	591	411	459	606	534	192	6	11	3	4	6	15	48	33	54	27	91	156	126	157	146	80	118	101	133	132	182	299	399
管内シェア	99.0%	99.8%	83.3%	90.0%	89.1%	78.4%	5.7%	13.9%	1.9%	1.1%	0.9%	2.2%	6.1%	3.2%	6.1%	2.9%	5.1%	16.1%	13.9%	17.9%	18.1%	13.2%	17.8%	16.4%	22.1%	19.8%	27.0%	34.0%	44.1%

このように管内の取扱量が多くなっている背景として、

- ・ 清水地区には、魚介類缶詰業からペットフードの製造にも事業拡大した大手企業が所在していること
 - ・ 中部地方には、餌料製造業から転身したペットフードメーカーが多いこと
- などがあげられます。

管内シェア再び首位に

管内の取扱量は増加傾向にあり、そして前述のように、今日では全国シェア第1位となっていますが、これまでの情勢を貿易統計上から見ると、取扱量にも様々な変化があったことが見て取れます。

図表6では1988年以降の管内取扱数量全国シェアの推移を掲載しました。

1980年代から1990年代半ばまでは、全国分の大半にあたる数量を管内のペットフードメーカーが欧州向けに輸出していましたが、その輸出も94年以降は一時途絶えることとなりました。

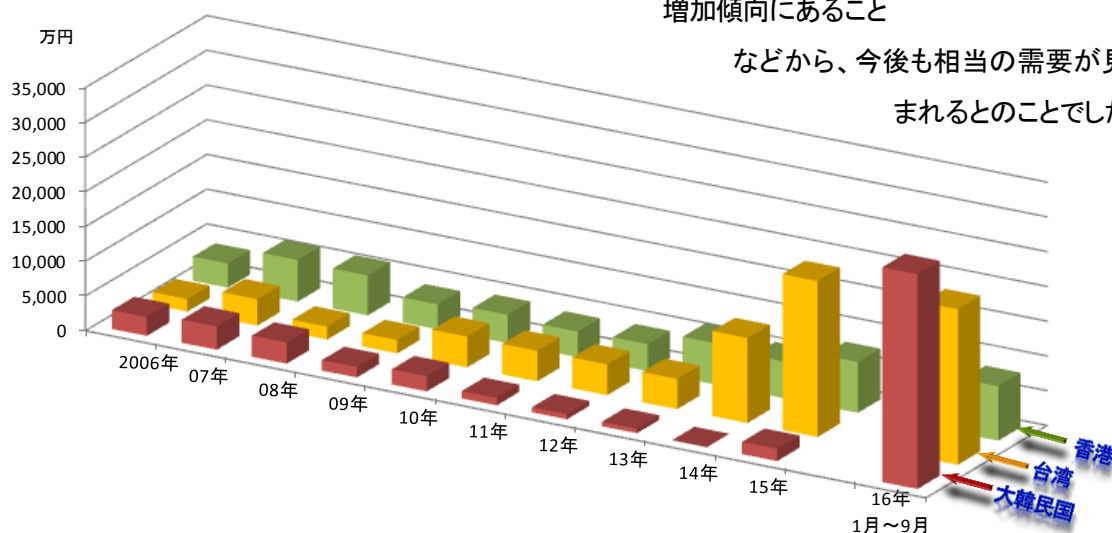
しかし、05年以降、アジア向けを中心とした輸出が増加し、14年には再び全国シェアで首位となり今日へと続いています。

国別シェア 3 か国で大半を占める 特に大韓民国への輸出が大幅増

2016年(1月～9月)管内からの輸出先地域・国としては、6の国と地域に向けて輸出されています。【図表7】参照

特に、上位3か国(大韓民国、台湾、香港)で全体の95%以上を占めており、更に全国分※3についても同様の傾向が見られるなど注目される所です。

なお、欧米諸国向けは、各国の認証制度が大変厳しいものとなっていること、また、大手市場である中国については、同国内に本邦メーカーの現地工場が設立され当該工場からの供給が行われていることなどから輸出実績が少なくなっています。



【図表8】 輸出先上位3か国の金額推移

西暦	2006年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年 1月～9月
大韓民国	2,697	3,341	3,023	1,497	2,197	1,072	721	654	-	1,764	30,887
台湾	1,828	3,810	1,865	1,924	4,420	4,396	4,427	4,347	12,229	22,433	22,390
香港	3,482	5,984	5,758	3,596	4,096	3,687	3,856	5,942	5,289	7,317	7,855

※3 国別シェア 全国実績 (2016年1月～9月)

	香港	韓国	台湾	その他
数量	31.6%	35.7%	27.8%	4.9%
金額	36.2%	33.5%	26.0%	4.3%

【図表7】管内 輸出先国別実績 (2016年1月～9月)

地域/国	数量 (MT)		金額 (千円)	
		構成比		構成比
全 国	399	100%	621,806	100%
大韓民国	148	37.1%	308,872	49.7%
台湾	170	42.6%	223,904	36.0%
香港	71	17.8%	78,551	12.6%
シンガポール	10	2.5%	8,403	1.4%
スウェーデン	0	0.0%	1,140	0.2%
ドイツ	0	0.0%	936	0.2%

上位国のなかでも、大韓民国国内のペット事情について、関係業界の話によれば、

- ・ 飼育割合としては、犬8割、猫2割程度であるが、最近では日本同様に猫ブームとなっている
- ・ 韓国市場では、キャットフードの商品が少ないことから市場開拓できる可能性を秘めていること
- ・ 核家族化が進むと同時に、ペット飼育数も増加傾向にあること

などから、今後も相当の需要が見込まれるとのことでした。

アジアの飼育率は30%台

ある外国のマーケティングリサーチ企業が2015年に行った「ペット飼育率調査」によれば、世界で最も多く飼われているのは犬で33%にのぼり、そして猫(23%)、魚(12%)、鳥(6%)と続くと紹介されています。

更に地域別のペット飼育率が最も高かったのは中南米(75%~80%)で、一方、最も低かったのはアジア(30%~40%)であったとされています。^{※4}

しかし同時に、アジアにおけるペット関連市場については、国民の所得の増加等に伴い、ペットの餌も残飯等からペットフードに移行しつつあるなど注目すべき市場であると紹介されています。

犬猫の平均寿命 76 歳に

日本国内における紹介となりますが、一般社団法人ペットフード協会が「2015年犬と猫の飼育実態調査結果」として公表した内容によれば、犬の平均寿命は14.85歳、猫は15.75歳(共に人間の年齢にすると約76歳)と、寿命は毎年延びる傾向にあるといえます。

こうした平均寿命が延びるにつれ、高齢の犬猫向けに食べやすいジェル状のペットフードや、不足しがちな栄養分を補った製品の開発が進められるなど、人間の食生活同様に、ペットフードについても「高級化」、「多様化」、「簡便化」、「健康志向」が好まれる傾向にあるようです。

犬、猫などのペットは家族同然の存在「コンパニオンアニマル」となっています。

飼い主のペットに対する安心・安全と健康管理への関心の高まりにより、ペットフード市場の拡大が見込まれているとのことです。

(おわり)

ワンニャンメモ

— ペットフードの歴史 —

ドッグフードは、1860年にアメリカの技師が、当時イギリスの波止場で、捨てられていたビスケットを食べている犬たちの姿を見て思いつき、事業化したのが始まりといわれています。

キャットフードは、1950年代にアメリカの会社が、食用魚肉缶詰の残りであるカツオやマグロの残部を利用して商品化し発売しています。



税関イメージキャラクター
「カスタム君」

本資料を引用する場合、名古屋税関の資料による旨を注記して下さい。
本資料に関するお問い合わせは、名古屋税関 調査部 調査統計課 (TEL052-654-4176) までお願いします。
また、貿易統計は名古屋税関HPでもご覧いただけます。《 <http://www.customs.go.jp/nagoya/> 》

^{※4} 日本国内の飼育率としては、内閣府が平成22年9月に実施した「動物愛護に関する世論調査」によると、犬や猫、その他の小動物をペットとして飼っている人は34.3%であったと報告されています。

税関イメージキャラクター「カスタム君」

『カスタム君』は、麻薬探知犬をモデルとした税関イメージキャラクターです。

名前は、英語で税関をCUSTOMS(カスタムス)ということから名付けられました。



カスタム君のプロフィール

誕生日	11月28日(※)
身長	180センチメートル
体重	90キログラム

密輸防止の街頭キャンペーンや税関展、広報ビデオやパンフレットなど、様々な場において、税関の広報活動に貢献しています。

ねえ、
麻薬ごときで
人生ダメに
するの？

税関

密輸ダイヤル 24h ▶ 0120-461-961

(※)「税関記念日」
一八七二年(明治五年)十一月二十八日、それまで「運上所」と呼ばれていたものを「税関」と改称されました。
これを記念して十一月二十八日は「税関記念日」となっています。
一九五二年に大蔵省(現在の財務省)が制定しました。